和文抄録

軽度知的障害生徒の運動・スポーツ習慣と健康関連 QOL

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119025
氏　名：杉山　友里子

【目的】

本研究では、軽度知的障害生徒の運動・スポーツに関する実態を明らかにし、健康関連 QOL との関係性及びその関連要因について検討することを目的とした。

【方法】

A 特別支援学校に在籍する生徒を対象に質問紙調査を行った。質問項目は、「個人的属性」、「現在の運動組織所属に関する項目」、「過去 1 年間の運動状況」・「環境に関する項目」、「生活習慣に関する項目」、「運動・スポーツ習慣に関する項目」、「運動への考え方に関する項目」、「健康関連 QOL に関する項目」から構成された。分析の対象は、調査への同意を得られた 187 名（男子 152 名、女子 35 名）で、 t 検定並びにカイ二乗検定を行った。なお、本研究は調査対象校の管理職、特別支援教育及び心理学の専門家と協議を行ったうえで実施した。

【結果】

本研究では、軽度知的障害生徒の 50.5%が運動・スポーツ習慣を有していることが明らかになった。軽度知的障害生徒の運動・スポーツ習慣のある生徒は、健康関連 QOL に関して 12 項目中人との関りや学校に関連する 3 項目で有意に QOL が高かった。運動部に所属する約 7 割の生徒が運動・スポーツ習慣を有していた。運動・スポーツ習慣のある生徒は、運動・スポーツ及び体育が好きと答えた生徒が有意に多かった。また、運動・スポーツ習慣のある生徒は約 7 割が卒業後の運動・スポーツ意欲があると答え、運動・スポーツ習慣ありの生徒は卒業後の運動・スポーツ意欲が有意に高かった。体育授業において、運動・スポーツを好きになることで、運動・スポーツ習慣へと結びつき、生涯スポーツの実践へと繋がる可能性が明らかとなった。また、本研究においては、将来不安に関する得点が高く、軽度知的障害生徒の将来に対する不安の強さが明らかとなった

【結論】

軽度知的障害生徒の運動・スポーツ習慣のある生徒は、健康関連 QOL の人との関わりや学校に関する項目が好意的であることが明らかとなった。運動部に所属する約 7 割の生徒が運動・スポーツ習慣を有しており、運動部活動が運動の機会や生徒同士の交流の場となっていることから特別支援学校における運動部活動の有用性が示された。また、運動・スポーツ及び体育の好きな生徒は運動習慣を有している者が多いことや、運動・スポーツ習慣のある生徒は卒業後の運動意欲が高いことが明らかとなった。